

東海地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究分担者：内海眞（独立行政法人国立病院機構東名古屋病院 院長）

研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二、石塚茂（Angel Life Nagoya; ALN）勝水健吾（Secret Base）
金子典代、塩野徳史、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

我々は2000年4月にMSMのCommunity Based Organization（以下、CBO）であるAngel Life Nagoya（以下、ALN）と名古屋医療センター（旧国立名古屋病院）の医療者からなる協働組織を作り、MSMを対象にしたHIV感染予防活動を開始し、2002年から当研究班に所属した。これまでの活動は、コミュニティセンターの運営、啓発活動、無料HIV検査会の実施、関係団体との連携構築、調査研究の5分野で実施された。2011年度から2013年度における活動とその評価の概要は以下の通りである。

1. コミュニティセンターriseの運営

コミュニティセンターriseの運営は、従来ALN単独で実施してきたが、2011年からは予防啓発に関わるグループの代表や個人からなる運営委員会を組織し、その協議のもとに運営することとした。また、来場者誘致のために開場時間の拡大やイベントの誘致を実施した結果、来場者数は年々増加した。

2. 予防啓発活動

啓発用コンドームを毎月、コミュニティペーパーHANAを年4回、名古屋市のゲイ向け商業施設とイベント会場に配布した。2001年から継続している啓発イベントNLGR+（Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus）を6月の第一土日に開催してきた。本啓発イベントは従来ALNが中心でボランティアを募って実施してきたが、2011年からは有志からなる実行委員会で実施した。

3. 無料HIV検査会の実施

毎年夏と冬にゲイ向けの無料HIV検査会を実施した。夏はNLGR+に併設した。夏の検査会の受検者数（括弧内はHIV陽性者数）は2011年から順に、254名（4名）、281名（4名）、408名（11名）で、冬の名古屋での検査会は同様に106名（2名）、94名（2名）、104名（0名）であり、冬の岐阜での検査会は順に24名（1名）、23名（1名）、36名（1名）であった。検査会の前に電話とメールによる相談期間を設け、研修を受けた担当者による事前検査相談を実施した。

4. 関係団体との連携構築

連携団体：HIV陽性者支援団体Secret Base、セクシャルマイノリティ支援団体NPO法人PROUD LIFE、薬物使用者支援団体NPO法人三重ダルク、名古屋のHIV/AIDS啓発団体WADN（World AIDS Day in Nagoya）、名古屋市、愛知県、岐阜県、名古屋医療センター。

5. 調査研究

愛知県内保健所の受検者調査と東海地区在住のMSMを対象としたインターネット調査-GCQアンケートーでは、ALNの啓発資材が受検促進に働いたが、行動変容には繋がらなかった。名古屋医療センター並びに愛知県のデータではAIDS発症者が漸減しており、ALNの活動には一定の有効

性が存在した。

A. 研究目的

我が国の HIV 感染症/AIDS の新規発生動向は、必ずしも望ましい方向へ向かっているとは言えない。新規 HIV 感染者とエイズ患者の合計数は 2008 年をピークにその後は横ばいとなり、2012 年には両者とも減少に転じているように見えるが、2013 年の第二四半期では HIV 感染者数歴代 2 位、エイズ患者数歴代 1 位、合計数も歴代 1 位で楽観視はまだ許されていない状況下にある。感染者患者の大部分は MSM で占められており、MSM を対象とした HIV 予防啓発活動はさらなる改善を迫られている。

この 3 年間 HIV 感染症/AIDS の予防啓発を目的として、Angel Life Nagoya（以下、ALN）を中心に新たな施策も導入して各種活動を実施すると共に、その活動の評価も行った。

この 3 年間の活動の内容は、以下の 5 つの分野に分けられる。即ち、1. コミュニティセンター rise の運営、2. 予防啓発活動、3. 無料 HIV 検査会の実施、4. 関係団体との連携構築、5. 調査研究の 5 分野である。本報告では、上記 5 分野の方法とその成果について記述すると共に、若干の考察を行った。

B. 研究方法

1. コミュニティセンター rise の運営

コミュニティセンター rise（以下、rise）への来場者を増加させ、彼らに HIV 関連情報に接する機会を与えることを目的に rise の運営を行った。2011 年にはそれまで ALN 単独で rise を運営してきたが、以後は HIV 予防啓発に関わるグループ（NGO、大学、病院など）の代表や個人からなる十数名の運営委員会を組織し、運営の基本はその協議に委ねることとした。次いで、開場時間を拡大し、各種イベントやサークル活動を誘致するとともに、関連団体の会議の場として利用してもらうよ

う工夫した。上記効果を年間の来場者数の変遷によって判定した。

2. 予防啓発活動

啓発用コンドームを作成し、名古屋市内のゲイバー、ハッテン場には毎月配布すると共に、イベントの際や検査会の受検者にも配布した。

コミュニティペーパー HANA を年 4 回発行し、上記商業施設とイベントの際に配布した。また、検査会の受検者にも配布した。

2001 年から継続しているゲイによるゲイのための啓発イベント NLGR を毎年 6 月の第一土曜日の午後から日曜日の夕方に亘って開催した。従来 ALN がボランティアを募って主催していたが、2011 年からは有志からなる実行委員会を組織し、名称を NLGR+ と変更して実施した。各種ゲイ向けの商業施設の協力を得て、HIV 関連情報の発信と、同時に行われる無料 HIV 検査会への参加呼びかけを主たる目的として実施した。

3. 無料 HIV 検査会の実施

毎年夏と冬にゲイ向けの無料 HIV 検査会を実施した。夏は上記 NLGR+ に併設し、2011 年、2012 年はイベント会場の池田公園から地下鉄で 4 駅離れている千種保健所で、2013 年は池田公園から徒歩 10 分の中保健所で実施した。冬は千種保健所（M 検 in Nagoya）と JR 岐阜駅ビルの一室（M 検 in Gifu）を借りて実施した。NLGR+ 併設検査会と冬の M 検 in Nagoya は名古屋市と名古屋医療センターが主体となって実施され、ALN は広報とボランティア募集並びに研修を担当した。M 検 in Gifu は岐阜県主催で、ALN はやはり広報を担当した。これまでの調査から WEB による広報が有用であることが判明したので、WEB による広報に力を入れた。また、これらの検査会に先立って事前の電話やメールによる検査前

相談を rise で実施した。相談担当者は事前に検査に関する研修を受けた者に限った。

4. 関係団体との連携構築

HIV 予防啓発に関わっている諸団体と連携をとった。連携によって、検査会のスムーズな運営、広報活動の拡がり、rise への来場者の増加、相談事業の強化などを期待した。

5. 調査研究

この3年間に各種調査が行われた。それらを列挙すると以下の通りである。

- 1) ALN の活動と名古屋医療センターにおける新規 HIV 陽性 MSM の動向との関係調査
- 2) NLGR 来場者のゲイ・バイセクシャル男性に対するアンケート調査とその経年変化
- 3) 愛知県や名古屋市の保健所で HIV 検査を受けた受検者を対象とした受検者の特性に関する調査
- 4) 各地域の MSM を対象にしたインターネット横断調査とパネル調査-GCQ アンケートー(予防啓発活動の介入評価)
- 5) HIV 抗体検査の受検者を対象にした質問紙調査

ALN の予防啓発活動の介入効果を上記調査の 1) 3) 4) から判定した。また、愛知県における新規 HIV 感染者/AIDS 患者数の動向と ALN の活動との関係を推論した。

C. 研究結果

1. コミュニティセンターrise の運営

rise の開場時間の変遷は以下の通りである。2011 年までの開場時間は、木/金曜日が 20 時から 23 時、土曜日が 16 時から 22 時、日曜日が 14 時から 20 時の週 18 時間であったが、2012 年からは火曜日の 18 時から 22 時を加えた。連携している陽性者支援団体である Secret Base が陽性者限定のピアミーティングやメール相談を実施している。陽性者の視点から見た HIV 予防活動への提案が得られた。

また、2013 年度からは月曜日の 18 時から 21 時も開場し、開場時間は現在週 25 時間に増えている。

現在 rise に誘致されているイベントやミーティングは以下の通りである。

JOINT : 20 代や名古屋市へのニューカマーを対象にした友達作りを目的とするイベントで毎月 1 回開催している。参加者は 5 名から 20 名であった。

- ・手話教室 : 月 2 回開催
- ・僕らのゲイライフプロジェクト : 月 1 回開催
- ・展覧会 : 適宜開催
- ・フラワーアレンジメント : 適宜開催
- ・ライフプランニング : 適宜開催
- ・WADN、GID PROUD、ダルクのミーティングが定期的に開催されている。

以上の結果、来場者数は 2011 年以降年々増加した。毎年 4 月から 12 月までの 9 ヶ月間における来場者数の比較では、2011 年から順に 1,522 名、1,885 名、2,261 名と順調に増加した。

2. 啓発活動

1) 啓発用コンドームの配布

毎月ゲイバーとハッテン場に配布すると共に、イベントや無料 HIV 検査会の際に配布した。ゲイバーの軒数は時期によって異なるが、31 軒から 39 軒(全体の約 2/3 をカバー)で、ハッテン場は 2 軒であった。2013 年度はゲイバーに毎月 381 個から 668 個を配布し、ハッテン場には合計 8,620 個(10 ヶ月間)配布した。ゲイ向けの商業施設でのコンドームの消費率は 9 割を超えた。イベントでは 1 回につき約 300 個を 4 回配布し、無料 HIV 検査会では 1,536 個配布した。

2) コミュニティペーパー HANA の配布

年 4 回発行し、毎回 3,000 部をゲイ向け商業施設、イベント会場、検査会で配布した。HANA の内容は、ゲイコミュニティの商業施設

の案内や地下鉄の時刻表、HIV 関連情報や検査案内とちょっとしたエッセイなどで、表紙には名古屋在住のキーパーソンを起用した。

3) NLGR+の開催

ゲイによるゲイのためのイベントを毎年開催した。日程は原則として6月の第一土曜日の午後から日曜日の夕方とした。参加者は毎回ほぼ延べ4,000人に昇った。

3. 無料 HIV 検査会の開催

毎年夏と冬にゲイ向けの無料 HIV 検査会を実施した。夏は NLGR+に併設した。夏の検査会の受検者数(括弧内は HIV 陽性者数とその割合)は2011年から順に、254名(4名;1.6%)、281名(4名;1.4%)、408名(11名;2.7%)で、冬の名古屋での検査会(M検 in Nagoya)は同様に106名(2名;1.9%)、94名(2名;2.1%)、104名(0名;0%)であった。冬の岐阜での検査会(M検 in Gifu)の受検者数(括弧内は HIV 陽性者数とその割合)は年代順に24名(1名;4.2%)、23名(1名;4.3%)、36名(1名;2.8%)であった。検査会に先立ち、事前の電話とメールによる検査相談期間を設け、研修を受けた担当者による相談を rise において実施した。

4. 関係団体との連携構築

予防啓発活動の質の向上と視野の拡大を目指し、関係諸団体との連携を構築した。連携を構築した団体の名称と連携の内容は以下の通りである。

1) Secret Base : 名古屋における HIV 陽性者支援団体である。予防啓発活動や検査会の受検促進においては、常に当事者支援団体との連携が不可欠となる。2012年4月から rise でピアミーティングやメール相談を実施した。HIV 陽性者の参加は0人から7人であった。また、Secret Base は rise の運営委員会のメンバーでもある。

2) NPO 法人 PROUD LIFE : セクシャルマイノリ

ティ全般を対象にして活動している名古屋の NPO 法人である。昨年4月から rise において電話相談事業を行っている。

3) NPO 法人三重ダルク : 近年薬物使用が切っ掛けで HIV 感染に至る MSM のケースが増えている。そのために、薬物使用に対する知識の修得と薬物依存症からの脱却を支援する必要性が生じてきた。2012年6月と11月の2回に亘り我々と三重ダルクとの情報交換を行った。

4) WADN : 10年前から名古屋地区を中心に活動しているグループで、HIV 感染症/AIDS の予防啓発に関係している10数個の団体で構成される。10年前に設立され、12月のエイズデーのパレードや講演会を主催すると共に、名古屋の高校生全般を対象にしたサマーセミナーでの講演や NLGR+でのブースに出展している。WADN の定期的な会議の場を rise が提供している。

5) 名古屋市健康福祉局健康部保健医療課 : 2001年に我々が始めた NLGR に併設した無料 HIV 検査会と4年前に始めた M 検 in Nagoya は、2009年から名古屋市の委託事業となっている。しかし、事業を実質的に支えるのは従来通り ALN と名古屋医療センターの医療者であり、それは現在においても変わらない。ALN の役割としては、広報、検査前相談事業、ボランティアの獲得および研修などが中心となる。また、名古屋市から委託事業費の提供を受け、啓発資材の一部をそれに充てている。

6) 愛知県健康福祉部 : 愛知県のエイズ対策会議委員として ALN の代表が出席している。また、NLGR+でのブース出展を通して、MSM の愛知県内保健所における HIV 検査を呼びかけた。さらに、愛知県から ALN は委託事業を受け、検査案内などの資材の作成に充てている。

7) 岐阜県健康福祉部 : 我々が始めた無料 HIV 検査会を倣い、3年前から岐阜県でも12月のエイズデー近くの日程を選択し、ゲイ向けの無料 HIV 検査を実施することが決定され、

我々が全面的に支援することとなった。その結果については前項で述べた通りである。

8) 国立病院機構名古屋医療センター：元々名古屋地区のMSMを対象にしたHIV予防啓発活動は、ALNと名古屋医療センターの医療者からなる緩い協働組織を作ることによって始まった。従って、医療センターとの関係は一体化とは言わないまでも密な関係が構築されている。特に無料HIV検査会の企画、実施、反省は絶えず医療センターと共に行ってきた。また、名古屋医療センターにおける新規HIV陽性者の動向は我々の活動の反省を促し今後の方向性を示唆してくれる。

5. 調査研究

主に5つの調査研究が行われたが、そのうち我々の活動の評価に繋がるものは3つである。

名古屋医療センターにおける新規HIV陽性MSMの動向を見ると、2009年においては43.4%と極めて高い数値であったが、その後減少に転じ(2011年度報告を参照)、2013年のデータでは新規HIV陽性者139名のうちAIDS発症者は44例の31.9%と減少していた。

愛知県下の16保健所におけるHIV抗体検査の受検者を対象とした質問紙調査が2012年度と2013年度に行われた(2012年度および2013年度報告を参照)。いずれにおいても啓発資材への接触経験のある人々の再受検率が高かった。

GQCアンケート(有効回答363名)においても、啓発資材への接触が受検促進作用を有することが判明したが、セーファーセックスへの行動変容には繋がっていない実態が明らかにされた。

愛知県健康福祉部健康担当局健康対策課の結核・感染症グループが愛知県におけるHIV感染症/AIDS発生動向を報告している。それによれば、2010年、2011年、2012年の新規HIV陽性者数(括弧内はエイズ発症者%)は

順に138名(41%)、126名(40%)、119名(34%)と陽性者数とAIDS発症者割合共に減少傾向にあることが判明した。この統計データから計算したエイズ発症者の絶対値は、順に57名、50名、40名と激減していた。

D. 考察

我々は2000年4月にMSMのCBOであるALNと名古屋医療センター(旧国立名古屋病院)の医療者からなる協働組織を作り、MSMを対象にしたHIV感染予防啓発活動を開始し、現在に至っている。これまでの活動は、コミュニティセンターの運営、予防啓発活動、無料HIV検査会の実施、関係団体との連携構築、調査研究の5分野で実施されてきており、この3年間の活動もほぼ同じ分野でなされてきた。

riseの運営は2010年度まではALN単独で行われてきたが、2011年度からは予防啓発に関係するNGO(Secret Base、HIVと人権情報センター、PROID LIFEなど)、大学、病院の代表や関心を有する個人からなる十数人の運営委員会を組織し、その協議のもとに運営を進める態勢に変更した。多くの人々の知恵を結集したいためである。その効果がイベントの開催やHIV陽性者の来場に繋がり、3年間にriseへの来場者は大幅に増加した。また、活動の中にHIV陽性者の視点が導入され、活動の質も向上したものと考えられる。

コンドームの配布はALNが担当した。少ないメンバーにもかかわらず、この活動は2000年から現在まで途絶えることなく継続されている。毎月1回バー、ショップ、ハッテン場に出向き新しいコンドームを配布している。バーが中心になるが、閉店や新規オープンなどがあるのでその軒数は時期によって異なるものの、ほぼ全体のバーの数の2/3をカバーした。但し、中高年層をターゲットとするゲイバーへのコンドーム配布は困難な状況が続いている。

コミュニティペーパーHANA もコンドームの配布に合わせて商業施設を中心に配っている。コミュニティにより親しまれ話題となる啓発資材となるように、表紙のモデルに名古屋の GOGO ボーイやゲイバーのマスターでもあるドラッグクイーンを起用した。これが関心の低かったゲイバーのマスターの理解を得ることに繋がると共に、マスターからバーの利用者への積極的な配布にも繋がった。

コンドームや HANA などの啓発資材への接触が受検促進作用を有することが、保健所の受検者を対象にした調査やインターネット調査でも明らかになり、地味な活動ではあるが今後も工夫をしながら啓発資材の配布は継続していかねばならないと考える。

NLGR は 2001 年より ALN が主催してきたが、2011 年より有志による実行委員会形式に変更し、名称も NLGR+ に改名した。有志の中には NGO のメンバーやゲイ向けの商業施設のオーナーあるいは純粋に個人としての参加者もいる。もちろん ALN もそのメンバーとして活動の大きな一翼を担ってきた。毎年原則として 6 月の第一土曜日の午後に開始し、翌日の日曜日の夕方まで継続するもので、ゲイによるゲイのためのイベントとして定着した感がある。ゲイ向けの商業施設の協力も大きく、関連団体のブースも十数個出展されている。メイン会場である名古屋市栄の池田公園ではステージが用意され、各種催し物の中に HIV 関連情報の提供、HIV 陽性者のトークショーや検査案内も加えて、HIV 感染症/AIDS への関心を引き出し、検査の重要性を認識してもらうと共に、陽性者への偏見を出来るだけなくす努力も合わせて行ってきた。NLGR+ の開催を通して、参加者が自然な形で上記目標を理解することを望んでいる。

検査会は NLGR+ に併設した夏のものとイベントに併設しない冬の検査会の 2 種類を開催してきた。冬は名古屋の千種保健所で開催する M 検 in Nagoya と、JR 岐阜駅のビル内で実

施する M 検 in Gifu との 2 つがある。夏と冬に名古屋で行われるものは名古屋市が予算立てするもので、市と名古屋医療センター並びに広報やボランティアの確保と研修を担当する ALN の 3 グループの協働で実施してきた。一方、M 検 in Gifu は岐阜県が主催するもので、ALN は検査会のノウハウを提供すると共に広報を担当した。MSM を対象にした無料 HIV 検査会は 2001 年に ALN と名古屋医療センターが NLGR に併設して開始したもので、その実績が認められた結果 2008 年から名古屋市が予算を計上する事になった経緯がある。岐阜県も同じように 3 年前に実施するようになった。2013 年の NLGR+ 併設の検査会受検者数が飛躍的に増加しているのは、それ以前はイベント会場から地下鉄で 4 駅離れた千種保健所を検査会場にしていたのに対し、2013 年に中保健所が池田公園から徒歩 10 分の中区役所内に移転したのでそこを検査会場に設定したためである。つまり、イベント会場に近い検査会場の設定による利便性の向上が受検者増に繋がったと考えられる。今後も受検者の増加を目指し、工夫を加えていかねばならない。

この検査会で HIV 陽性と診断された人々はほぼ全員医療機関に紹介され、治療に繋がられた。治療により AIDS 発症を免れ、且つこれまでの生活が保証されるので、ゲイ向け検査会による新規 HIV 陽性の診断は意義あるものと思われる。また、以前の本研究班での研究により、検査会における新規診断の費用対効果は保健所におけるものよりも 3 倍効率的であることが判明しており、今後も継続していく価値のあるものとする。さらに、検査会においては検査前と後のカウンセリングが必ず実施されると共に、啓発コンドームや HIV 関連情報誌（保健所検査の案内も含む）も手渡され、啓発活動の一環としても意味あるものとする。

また、多くのボランティアの参加なしではこの検査会は成立しないが、若いボランティ

アの参加は彼らにとっても HIV 関連情報の習得とセクシャルマイノリティに対する理解に繋がり、その波及効果は大なるものがあると信ずる。

2001年に開始された本検査会は、当初は完全に自主的なもので、すべてのボランティアは手弁当での参加であった。その後本研究班の事業となった後に地方自治体の事業へと拡大していった。検査会を義務的な行事として認識するのではなく、いつも最初の精神に立ち返り、社会的ニーズに応える検査会であることを再確認して検査会に臨みたいものである。

この3年間にいくつかの HIV 関連団体と連携を成立させた。それぞれの団体は独自の視点と活動歴を有するが、我々の活動にとっても視野の拡大と活動の質的向上に役立ってきた。その結果として、rise 入場者の増加と検査会受検者の増加に繋がったと考えられる。今後とも連携を拡大していくと共に、連携の内容を深めて行く努力を継続していきたい。

我々のこれまでの活動がどの程度の意味と価値を有したかについては、本来は第三者機関に判定してもらわなければならない問題であろう。しかし、研究班の内部での調査もこの問題に対してある程度の回答を与えてくれる。愛知県内保健所の HIV 抗体検査の受検者を対象にした質問紙調査と東海地域在住の MSM を対象としたインターネット調査-GCQ アンケートでも、啓発資材に接触した人々の HIV 検査の再受検率が高く、受検促進にポジティブな効果を発揮していることが判明した。かつ、GCQ アンケートでは資材に接触した年齢層は 25 歳から 39 歳の ALN が対象としている MSM に高く、この意味でも ALN の活動も一定の成果を挙げていると言えよう。しかし、コンドーム使用の向上には繋がっておらず、さらなる改善が必要であろう。

名古屋医療センターのデータでは毎年の新規 AIDS 患者の割合は 2009 年がピークの

43.4%であったが、それ以後漸減し、2013 年には 31.9%まで減少した。愛知県のデータでも、2010 年に 41%であった新規 AIDS 患者の割合は 2012 年には 34%に減少している。新規 HIV 陽性者数も減少しているため、新規 AIDS 患者の発生数は激減していることになる。予防啓発活動が成功すれば、検査が推進されるので HIV 感染者の数は増加しても早期発見に繋がるので AIDS 患者数の減少に結びつくはずである。2009 年度までは AIDS 患者数の減少傾向は認められなかったが、名古屋医療センターのデータでも愛知県のデータでもその後は減少しており、この数年間では明らかに ALN の活動の成果が出てきたと推論してもよいだろう。

ALN の予防啓発のターゲットになっている層の多くは、ゲイ向けの商業施設を利用する 20 台後半から 40 台半ばと考えられる。高年齢層へのアプローチは現在のところ未だ十分ではない。名古屋医療センターの新規 AIDS 発症者の大半は 40 代以上の高年齢層であるため、今後は ALN が現在カバーしていない層への予防啓発が必要になるだろう。

E. 論文発表等

(論文発表)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 60(10), 639-650, 2013

(学会発表)

1. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
2. 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也,

塩野徳史, 市川誠一 : ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ-アウトリーチ・マニュアル作成を通じて-, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

3. A. Shingae, N. Kaneko, S. Shiono, S. Ichikawa, M. Utsumi : HIV Testing among MSM Attending Community-based HIV Testing Events in Nagoya, Japan from 2008 to 2010, The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Busan, Korea, 2011
4. 吉澤繁行, 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, コーナ ジェーン, 市川誠一, 石田敏彦, 藤浦裕二, 真野新也, 内海眞 : 名古屋の無料 HIV 抗体検査会を併設した屋外イベント NLGR 来場者における来場経験別 HIV 抗体検査受検経験率とコンドーム常用率, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
5. 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一, 山本正弘, 健山正男, 内海眞, 生島嗣, 鬼塚哲郎 : ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011